

2023年9月1日(金)、猛暑日が続いて暑い一日でしたが、皆さん防暑対策をしっかりとって、熱中症にかからないように、給水休憩を多くしてのハイキングを10名で楽しむことができました。

今回訪れた日光街道は、江戸日本橋から、家康を祀る東照宮がある日光山への主要道路として整備された街道です。日本橋を出て「千住宿」の次の宿場町で、埼玉県入って最初の宿場町が「草加宿」です。

宿場町の面影を残す建物など見ながら、また、かつて松尾芭蕉も、おくの細道の旅で立寄った草加宿の街道風情が再現された「草加松原」では、そんな芭蕉の像やゆかりの石碑なども見ながら散策してきました。コースは下図の赤点線(往路)、青点線(復路)のルートで約6kmコースでした。



10:15 草加駅に集合、出発前の説明



10:20 草加駅



10:25 日陰を選んで日光街道へ向かう



10:30 藤城家住宅・店舗・蔵



「藤城家」は旧草加宿の中央に位置し、江戸時代の宿場町にあった商家の造りが良く伝わる建物で、国登録有形文化財。裏手に蔵造りの建物も見える。

内部は非公開(現在も使用中のため)

10:35 大川本陣跡の碑



10:40 暑さ対策でコンビニにてアイスなど購入、小休止



10:45 清水本陣跡の碑



「大川本陣跡の碑」は、江戸時代の宝暦年間まで置かれた本陣の跡。建物などの遺構は残っていない。

「清水本陣跡の碑」は宝暦年間以降、明治時代まで置かれた本陣の跡。昭和初期にはまだ塀の一部が残っていたとのこと。



10:50 札幌河岸公園へ向かう一行、日陰は風もあり意外にも暑さから逃れられました。



11:00 甚左衛門堰(県指定文化財)

治水関連の史跡で、綾瀬川と伝右川の間で
用水量を調整する役割だったもの。

明治 27 年(1894 年)から昭和 58 年(1983 年)までの、約 90 年間使用された。

11:05 札幌河岸公園内の木陰で小休止



11:20 松尾芭蕉像



11:25 日光街道の碑 (題字は畑 和 元県知事)



松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出た、江戸時代の
元禄2年(1689 年)。江戸深川から舟で千住宿へ渡り
日光街道を北上。粕壁(現、春日部)へ向かう途中に
草加宿が登場。

この像は「おくのほそ道」旅立ち 300 年を記念して、
草加市民有志によって昭和 64 年(1989 年)に製作
された。





11:30 矢立橋

草加松原内にある和風の太鼓橋が、街道風情を醸し出しており、歩道橋として使用されている。



11:35 松原綾瀬川公園ハープ橋



11:40草加松原遊歩道—おくのほそ道の風景地



11:45 草加松原 街道にて集合写真

11:58 おせん公園

せんべい形の「草加せんべい発祥の地」の石碑。
背後に控える棒状の碑は、煎餅を焼く箸の形。

- ・草加松原の茶屋では、おせんさんの作る団子が評判。
- ・当初、団子が残ると捨てていた。それを見た侍が「つぶして乾かし、焼餅として売っては？」と新規提案。
- ・おせんさんがそれを売り出したところ大評判となり、日光街道名物となった。



12:05 芭蕉の弟子、「河合曾良」の像
おせん公園の近くにありました。

12:45 「生そばあずま」草加店にて昼食



そばの盛は1玉から3玉は同額！！





13:30 草加市歴史民俗資料館(登録有形文化財)
(元草加小学校西校舎)

資料館の建物は、大正15年(1926年)に草加小学校校舎として建てられた、埼玉県初の鉄筋コンクリート造りの校舎を活用。建物自体が国登録有形文化財とのこと。

14:25 無事に草加駅到着



過去にない猛暑日がつづき、9月になっても涼しくならない日にハイキングが当たってしまいました。参加して頂いたみなさん、日傘、ネッククーラーなどそれぞれ準備し、スタート前には十分に給水をして出発となりました。街中では日陰になる側を選んで歩行しましたが、幸いに通りを抜ける風も感じ、思っていたより暑さを感じないで歩くことができました。

途中、休憩を取りながら、時にはコンビニでアイスなどを購入して、体を冷やしながらの草加宿の街歩きとなりました。

日光街道草加宿の街並み、札場河岸公園、松尾芭蕉が「おくの細道の旅」で立寄った草加宿の街道風景を再現した「草加松原」では、松林の木陰を縫っての歩行で、芭蕉の旅を感じられたでしょうか。

コース距離では6kmくらいでしたが、万歩計では約1.1万歩でしたので、実質7km以上のハイキングであったと思います。何はともあれ、猛暑の中、大きなトラブルもなく、皆さん無事に完了できてよかったです。参加の皆様、大変お疲れさまでした。

次回は、10月6日(金)「桶川街歩き」が美術工芸科の担当で開催されます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

記:加藤 治朗